

施設一体型小中一貫教育校における 学年ブロックの考え方について

2024年6月20日

施設一体型研究会資料



小中一貫教育

広島県府中市

教育が変わる
学校が変わる
子どもが変わる。

平成24年度版

府中市教育委員会



品川学園（義務教育学校）
<https://shinagaku.shinagawa.andteacher.jp/>

横浜市霧が丘学園（義務教育学校）
<https://www.kanaloco.jp/news/social/entry-70305.html>





小中一貫教育の意義

- 教育方針やカリキュラムの一貫性と最大9歳差の利点を生かした仕組みである

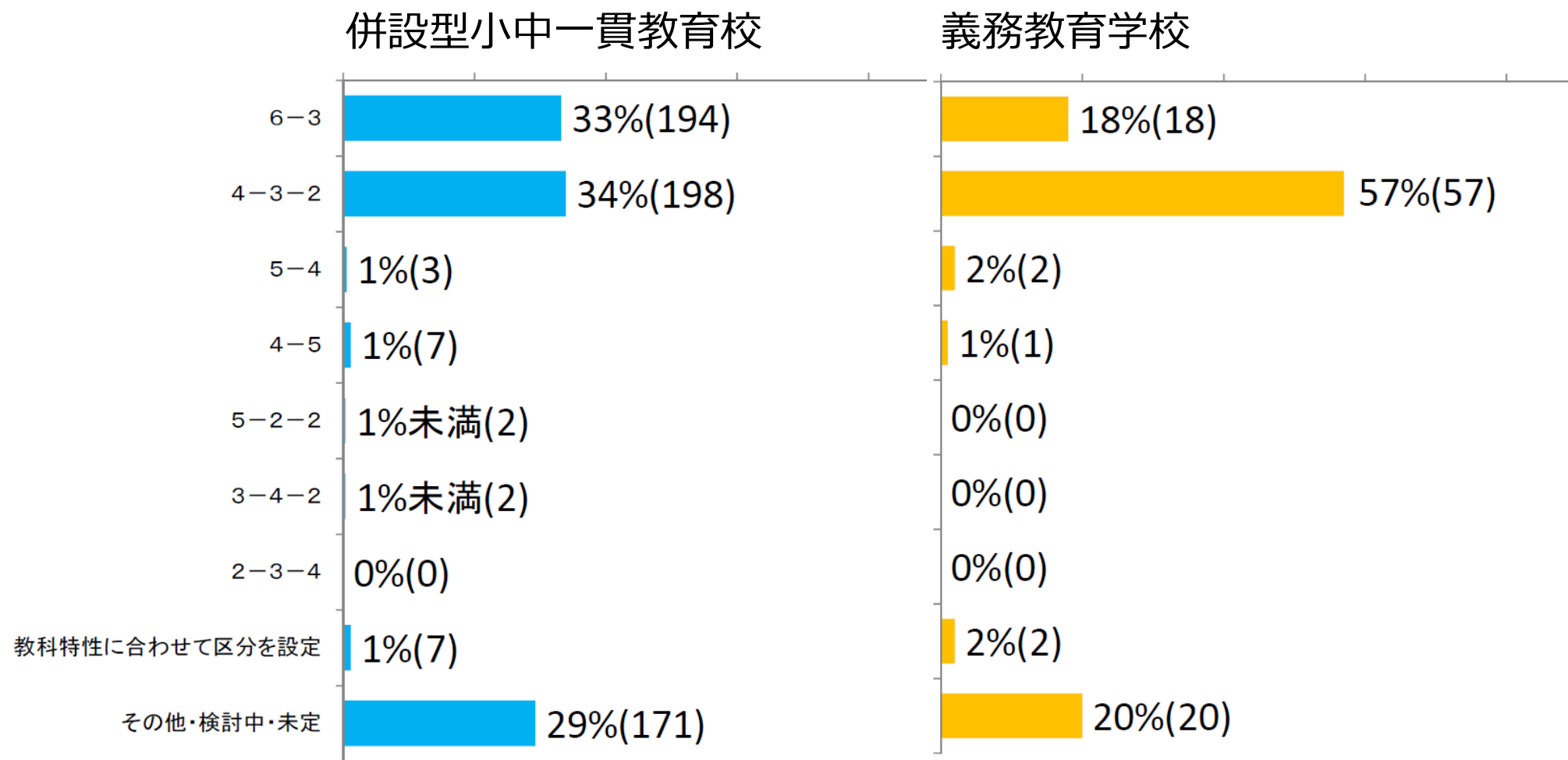
- ◆ 施設分離型

- ・ 教育方針やカリキュラムの一貫性
不連続、ダブりの解消
- ・ 異年齢交流のイベント化

- ◆ 施設一体型

- ・ 異年齢交流の日常化
目標意識の育成（上級生への憧れ）
規範意識の醸成（下級生への模範）
- ・ 教育的意味のある複数の段差設定
9年間で3つの学年ブロックに分ける
5-4制、4-3-2制 …

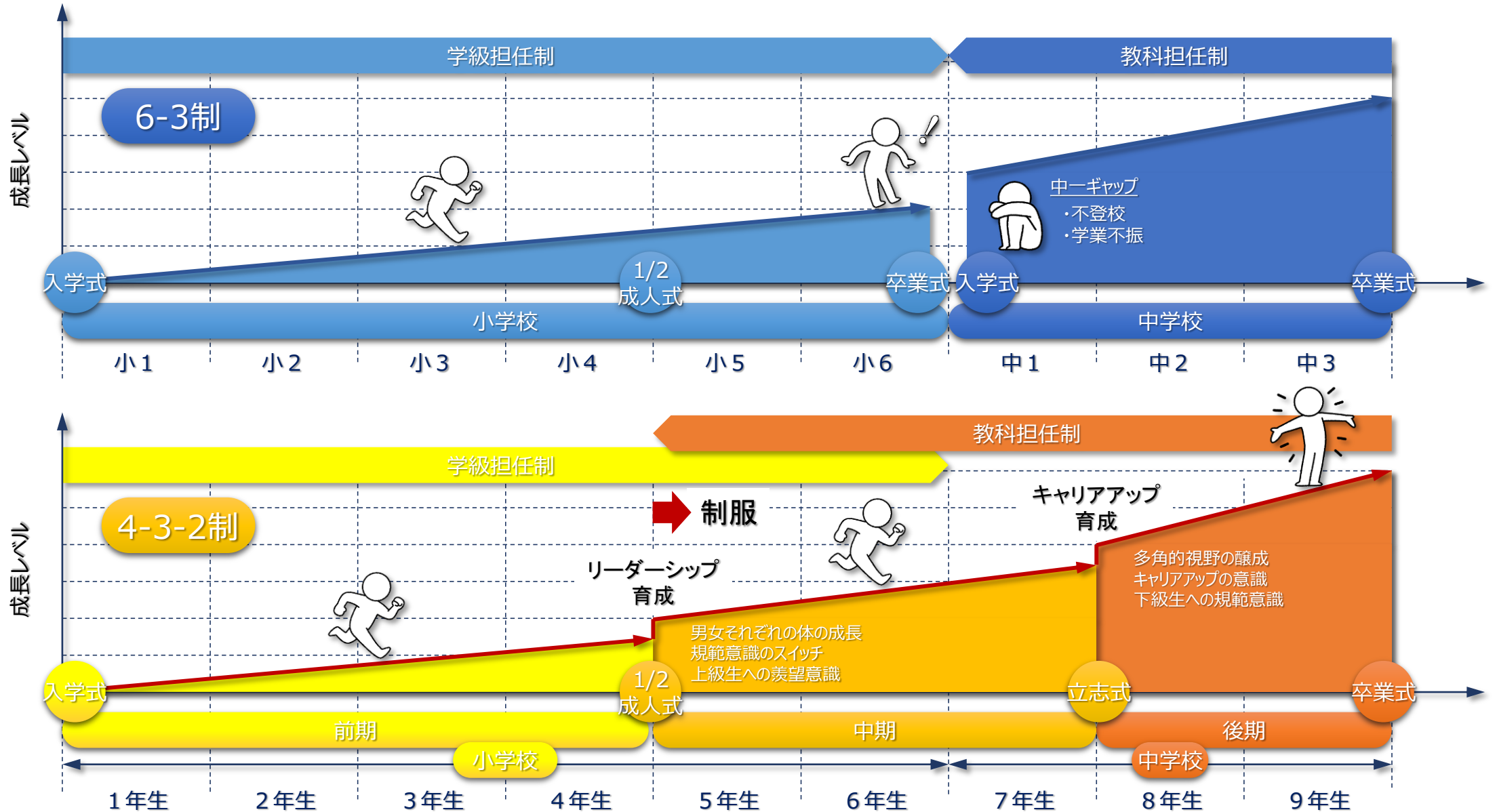
9年間の学年区切りの種類



回答: 584件 (併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数)

回答: 100校 (義務教育学校設置及び設置予定校数)

小中一貫教育の仕組み



学年制を変えることの意義

- 9年間の区切りやその数を変えることにより、
教育的意味のある成長ステップを設定することができる

◆ 小中一貫教育の背景にある課題

自己肯定感の低下

中一ギャップによる順応性低下

...

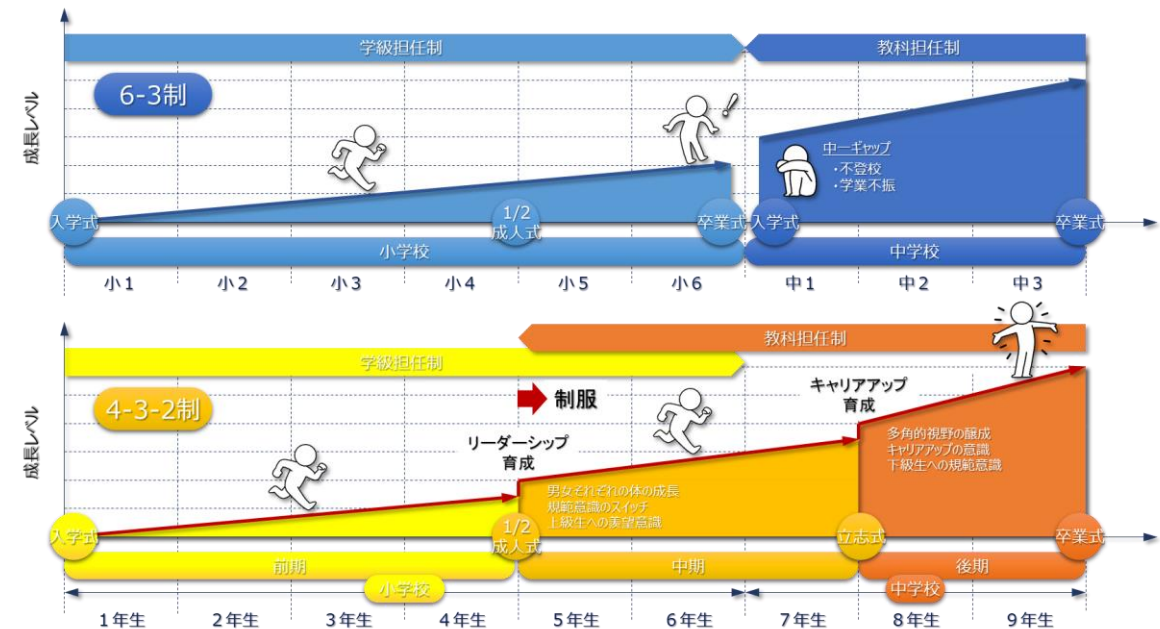
◆ 3ブロックからなる学年制の例 … 4-3-2制

1-4年生 リーダーシップ意識の育成

5-7年生 中一ギャップ解消

8-9年生 キャリアアップ意識の醸成

5年生から制服(シャキッと感)

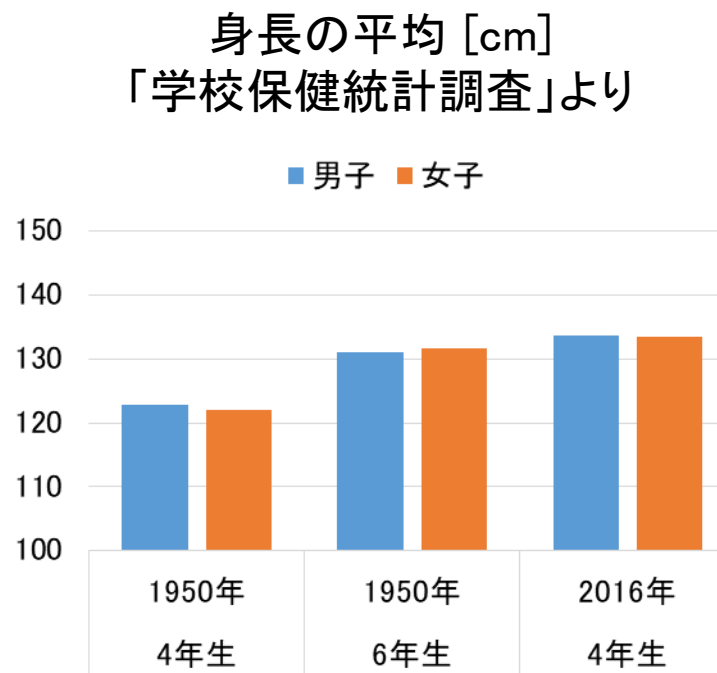
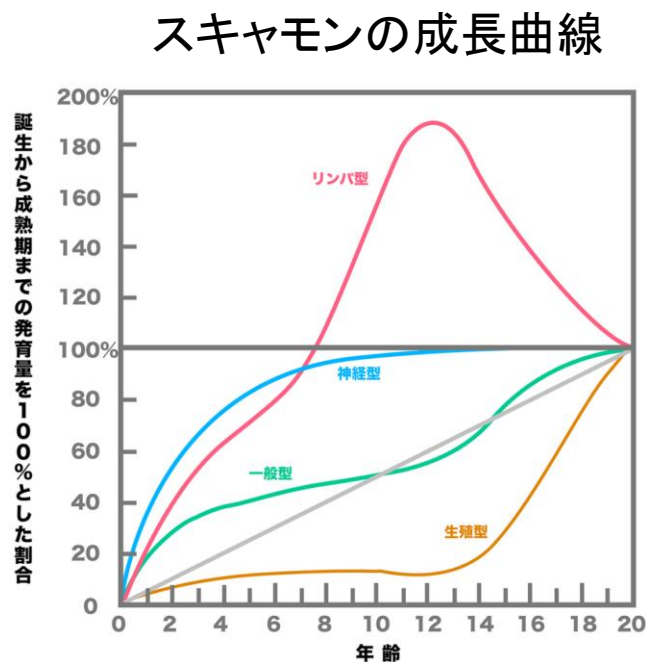


4年生で区切る意義

- 1947年に6-3制が制定された時代に対して身体の成長が早まっている
- 学年区切り年度を心身の成長に合わせる必要がある

◆ 身体的な成長

食の変化、多様化、生理的変化
身長、体重、ホルモン、声変わり…



2016年の4年生は
当時の6年生よりも
身長が高い

7年生で区切る意義

- 5-6-7年生を連続させることによって中一ギャップの解消につなげる
- 8年生から進路を考え始めることにより個の学びを充実させる

◆ ステージコンセプト

成長イメージを明確化


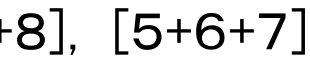
基礎 → 活用 → 個の学び：進路

	第1ステージ (1年生～4年生)	第2ステージ (5年生～7年生)	第3ステージ (8年生～9年生)
コンセプト	学ぶための基礎作り	学んだ力の活用と探求	じっくり進路を考える
体の姿	聴く姿勢の徹底	協働的な学び 話し合い・関わり合い	個の学びの充実
授業時間	45分授業	50分授業	50分授業
各教科	学級担任	教科担任	教科担任

4-3-2制にそった学校行事

- 教育段差を意識した学校行事により、4-3-2制の効果を引き出すことができる

◆ リーダーシップ育成 …「自分たちがリーダーだ」

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 品川学園(ブロック制) | 春季運動会“天桜祭”[5+6+7+8+9]
秋季運動会“光棕祭”[1+2+3+4] | |
| <ul style="list-style-type: none"> 日野学園(クラスター制) | ブロックごとの縦割り班活動
Brothers & Sisters [1+2+3+4]
Five & Six & Seven [5+6+7]
Eight & Nine [8+9] |  |
| <ul style="list-style-type: none"> 府中学園(ステージ制) | 異学年合同遠足 [1+9], [2+3+4+8], [5+6+7]
4年生, 7年生=ステージリーダー
9年生=学園リーダー
6-3制よりもリーダー経験が増える |  |



施設一体型に適した学校施設

- 学年制設計と学校施設は密接な関係がある
 - 4-3-2制の効果を引き出すための学校施設が必要である
- ◆ 「見える」「見せる」を意識した教室配置（異年齢活動の日常化）
 - ・ 学年ブロックごとの教室群
 - ・ 異学年交流に適した配置
 - ◆ 日常的に見られている、見えている工夫（規範意識と目標意識）
 - ・ 下駄箱、掃除用具入れの配置
 - ・ プリントボックスの配置
 - ◆ 進級意識高揚アイテム（前期、中期からも後期の姿が見える）
 - ・ 白木の机、鍵付きロッカー

4-3-2制に適した学校施設

● ブロックごとの教室群



異年齢交流のために設計された
必然性のある教室配置

- ・ 昇降口は一つ
- ・ 学童保育、子育て支援センターから1年生の教室が見える
- ・ 本館二階前期ブロック(2,3,4年生)と後期ブロック(8,9年生)が同じフロアの隣り合わせに配置
- ・ 中期ブロック(5,6,7年生)は別棟に配置 (東館二階)
- ・ 5,6,7年生は、一階学童保育の前を通らなければならない

朝の登校風景

- 異学年交流のはじまり



前期ブロックと中期ブロックの登校風景



後期ブロックの登校風景



前期ブロックと中期ブロックの登校風景

目標意識を高める工夫

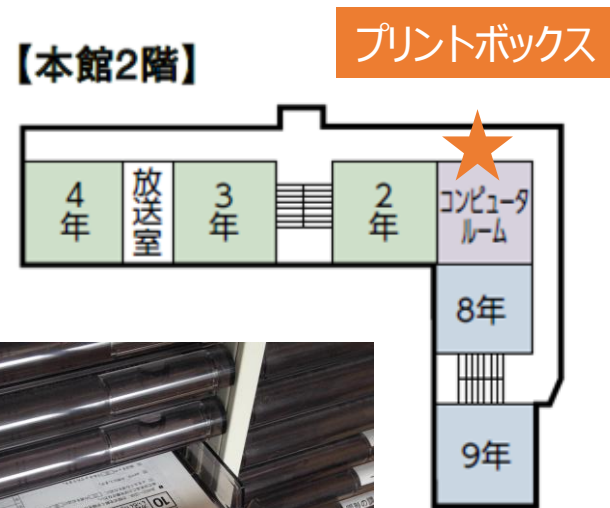
- 学年目標＋ブロック目標で中期目標を設定することができる



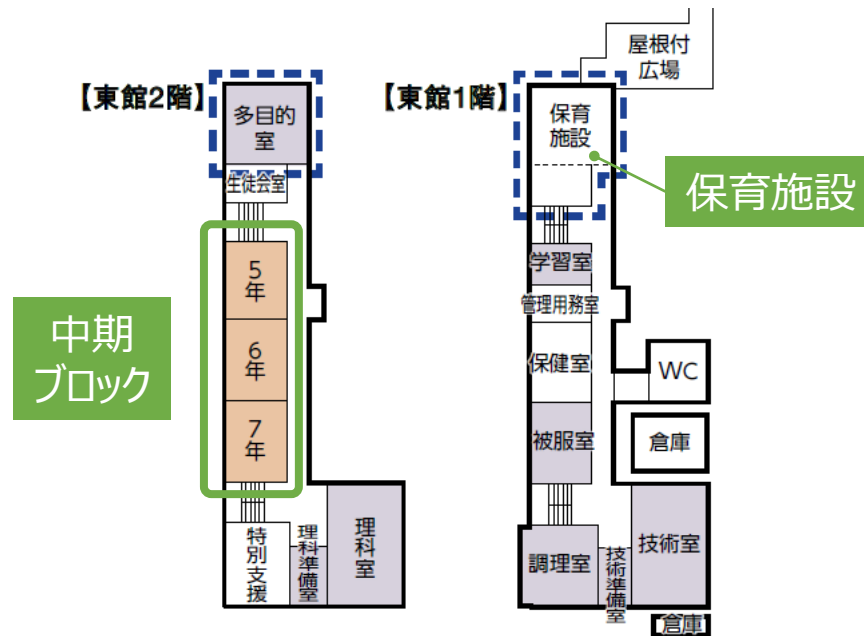
京都大原学院 ブロック目標

規範意識を高める工夫

- 「常に下級生に見られている」という意識が重要



後期ブロック(8,9年生)のプリントボックス



中期ブロックの下駄箱

目標意識を高める工夫

● 机やロッカーの差別化で「あこがれ感」を演出

京都大原学院

- ✓ 1～7年生までと8,9年生の机は異なる
- ✓ 白い天板の新しい机は後期ブロックに優先配置される



京都大原学院
中期ブロック(5,6,7年生)



京都大原学院
後期ブロック(8,9年生)

品川学園

- ✓ 後期ブロックは鍵付きロッカーが配布される



品川学園
中期ブロック(5,6,7年生)



品川学園
後期ブロック(8,9年生)

● 見通しが効く教室配置

- ・ 5、6、7年生が横並び（日野学園は5,7,6年）
- ・ 8, 9年生が横並び
- ・ 廊下の端にある教務センターからは、これらの教室群を見通すことができるため、日常的に子どもたちの様子を捕えられる



● 共有スペースが広く確保

- 多目的用途のステージは、展示やイベントなどを通じた異学年交流が可能である
- 教室群の廊下が十分に広いため、ここを異学年交流の場としても使用できる
- ライブラリーはオープンスペースである



多目的用途の共有ステージ



間口が広いライブラリー



教室群を貫く広い廊下

◆ 動線が重ならないよう十分なスペース確保

- ・ 間口が広い昇降口
- ・ 低層階にある低学年用の教室には直接、校庭に出入りできる出口がある
- ・ 防災の視点では、十分な避難経路が確保されている



直接、校庭に出入りできる低学年の教室



高学年用昇降口



高学年用昇降口

まとめ

- 小中一貫教育の9年間を区切る学年ブロックの考え方を紹介した
- 次の二つを考慮したご義務教育学校の学校施設を紹介した
 - ✓ 学年ブロックごとの教室群と教室配置
 - ✓ 異学年交流を日常化できる教室配置と共有スペース
- 小中一貫教育の学年制設計とと学校施設は密接な関係がある